

音読

俳句のリズムを感じ取りながら  
音読や暗唱をしましょう

年

名前

俳句4 (冬をよんだ俳句)

俳句(はいく)とは五・七・五の十七音から成るものです。季節や風情、

歌に込めた思いなどを思い浮かべたり、俳句がもつリズムを感じ取ったりしながら読みましょう。

いくたびも 雪の深さを 尋ねけり (正岡子規)

雪は、いったいどのくらい積もったのだろう。自分は病(やまい)にふせて起き上がれないので、何度も家の人に雪がどれくらい積もったのかを尋ねたことだ。

いざ子ども 走りありかん 玉霰 (松尾芭蕉)

さあ、子どもたち。外に出て走ろう。玉のような霰(あられ)が降ってきているぞ。

うまさうな 雪がふうはり ふうはりと (小林一茶)

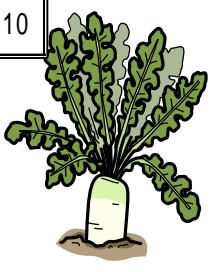
手にとって食べたなら、いかにもおいしそうなのが、空から舞い下りてくる。ふんわりやわらかそうに、ふうわり、ふうわりと。

斧入れて 香におどろくや 冬木立 (与謝蕪村)

かれ木のようになった冬木立の中、一本の木を切り倒そうと、斧(おの)を勢いよく入れたら、思いがけなく新鮮な木の香りがただよった。

大根引き 大根で道を 教へけり (小林一茶)

農民が畑で大根を引き抜いていたところ、そばを通った人に道を尋ねられて、今、引き抜いた大根で方角を指し示しながら道を教えた。



読んだ回数 ( で 囲む )	
11	1
12	2
13	3
14	4
15	5
16	6
17	7
18	8
19	9
20	10

	よい姿勢		
私の評価 ( )		すらすら読む	俳句の暗唱
先生の評価 ( )			意味が言える